

詠諧節用集 全

世阿弥 53巻

利9
3869
56

71



詠諧節用集 全

利 9
3869
56

[Faint handwritten text on a white paper slip]

五音五十字

ワ	ラ	ヤ	マ	ハ	ナ	タ	オ	カ	ク
イ	リ	井	ミ	ヒ	ニ	チ	シ	キ	イ
ウ	ル	ユ	ム	フ	ヌ	ツ	ス	ク	ウ
エ	レ	エ	メ	ヘ	子	テ	セ	ケ	エ
オ	ロ	ヨ	モ	ホ	ノ	ト	ワ	コ	ヲ

大正七年青香寄
室井平藏氏贈

利 9
號 3869
卷 56

折句集

子ろ肩ふる羽と延る糸
宮系乳母に交り及のん
伴仕と基盤の上へ袖く



祝美日や一櫛の思だの
残すやをふく袖まの
茶會送馬りがぐだの
伏見より移く大坂

サキイ侍もあどくありー
 引子あどく風はれん 鳴子むん
 カ、 髪並の眉もよ同士の肩の時
 ラ、 らんぢうの樂ヲ 隠居の樂抱
 キ、 乳邊の氣もゆる北穴
 カチ 髪並の綿よ流りし父と母
 ハヲ 若くは樂土のあどくき
 サタニ 珍れ首垂の月人あどくか
 キウ 京よりも仕人よ来方修人形

村上一

ヲク 流るる雲より型する不二坊
 フ子 毎土穉世り猫の尻こ
 ハヨ 鼻せりくくく 舌生せりあ
 ロタ 秋年と他人のやう 目せり
 ラ也 折く 於すな先妻の 胎
 タタ 抱つくとわれく されま
 キムシ 後仕人娘くあどく計之る
 アユタ 誰おそくまや あれどなま
 ヲク 後あどく使返向と

ワタ 笑りて存んまごん相も好
ウタ 鳴るん今五條うらやみんく
キヒ 来た人あよ一調子とナ
ヲマ 帯とわさのこまか本姓
キナユ 吉日成り小光の 恋ひすま
ケツ 妹子人形の馬ツイこす尾
セテ 芥つとひく鉄焼の玉
ワタ ぼらくとふ風う移らる影のあ
ニイセ 式日よ隠居へ孫の燈籠へ

折上ニ

ハナタ 去るあや南去とよあたこの三
ヤカ 物事終りしと東にた笑のあ
サユシ 三分又重よぬく食をた
タヤ 丹波信ふらけ送ら山あり
ヘニシ 舟まう運く度く想と後
イシヨ 不白のま本もぬる音たり
キヨフ 舟ま入る娘とふ百拂の飯
イタ 企及くも懐ちりよた婿と妻
スキ 摺ぐちも教半勃く菊物

ススキ 墨深の裾を多しきり
モヲ 枕の酒乳母も碎くも奥に
カス 園の松まきく夜を的す
カス 顔かきす暮るる時
カス 封密一巻く涙を同く
ススキ 恋の形も枕密一巻の友
サシ 桜さだ琴の音止ぬ下屋ま
ススキ 冷出の任甲斐も
二ウヲ 舟の志も乳母を
折上云

モヲ 物尸と信たるる密に
ニヤ 主乃と老来代も
モヲ 取より下弦のめん
モヲ 旅中らもせん
モヲ 異サ又心を別する
アヤフ 雨乞の社へ礼のふ
モヲ 夜た更らるるま
ヒサユ 引けさるる波の
ツテ 朔日斗りて

三ニ 子れニ味しんや幸^ハ集^ニ結^ト

ナツ 七里うらむ橋上^テの魚

ウツ 今朝のぬ^ニ人^ノの^ある^をは^たる^が

ウを 後紐^るの^位に^ぬる^孫の上

ニモツ 秋^にま^れ度^の山^のあ^のつ^り

ス、 勝^のよ^う一^行京^河の^あら^うや

ス、 才^の目^のり^と素^の息^は不^の辨^のあ

ス、 友^のた^らん^雲舟^の丁^やい^るは^は

ス、 物^のの^まを^らう^まく^る白^の末^のの^ま

上ノ四

カチ 兎^一は^勝く^嵐と^侵ど^る白

カエテ 似^や毎^の枝^とう^や小^の毒^の枝

カサ 風^をひ^梅の^傳は^るは^後先

カモ 人^んん^はあ^の下^り娘^え

カモン 忍^のか^い味^のか^い物^の白^のか^い

キツニ 後^に血^後と^かあ^の人^の枝^心

カユ 馬^のう^ら風^と石^のあ^のと^好い^城

ユエテ 采^のん^い知^の息^や去^へう^の座

て井^リ 孫^のを^隠張^の胡^よう^の久^の

多ク 隈邊の馬去産く乳母と

ふナ 姑の自刺陳せられたる母

ナハ ぢやんと二丁也り梅かん

久 嘯ひくく遊し妹のあふりこ

・テカ ちかどやけせんせふうんをの

・タト 仏禮よあをばけさねとら子

・久 懐ひく日得んともりぬ

・五 不三の種をくくおひへんとんを

ヒニユ 籠安んをく罪つるふらり

ニカタメ けふと建所側ハ名所一任

・久 瓦屋のさちふど黄ふ西のこ

・ウキ 常れなく孫も産まふ君の云

・エニキ けりしの厚は杖はく其香の云

・タメ 借りも縁はよふ目ノ子かん

・ヨシノ 塚う茶成姑くく懺 終

・アト ぬ乞の中ニ物ナ仕 齋ふく

・カサ 忍辱傳とられたる首のせがらり

・カシ へりやう悔遠くく清の

夕暮 半遊やう 只々 ちんぽく ちんぽく

・ウキ 牛飼の長床を起す下の方

ウキ 初更や 永き日 花れ 金魚の

こまヨ 豆粒の 美の 守 嫁の 来

久 町を ぬく 松を びり せ せ 包ム

ウキ 貴の 花よ 仲良し 心を 付

久 節 追ふ けく けく 日の 丸

ヤシ 柳の 指り 咲く や 暮る の 花

毛ム 懐く 文字を かく 入 百梅の 毛

イ未 隈 居る 途 乃 の 云 昔 加 怯

サ夕 昔 暮る 乃 の 色 花 花 花 猫

カヨ 傘 あり ちんぽく せ 花 花 花 花

毛シ 二 可く 枕 花 け 花 娘 目 立

言ハ 順 礼の 夜 する 花 花 花 花

オキ 永 昔 日 や 嘆 け 利 休 け 逃 ぶ 考

イヨヨ 井 戸 人 の 折 よ 上 った 嫁 の け

スキ 炭 入り 花 花 花 花 花 花 花 花

子ト 的 の 燈 七 フ よ ちんぽく 床 花 花

カサ 採りて 養ふ者 然るに 採りて 採りて

生 國の 採りて 採りて 採りて 採りて

子ト 採りて 採りて 採りて 採りて 採りて

ハツ 母も 採りて 採りて 採りて 採りて

キヤ 切りて 採りて 採りて 採りて 採りて

キヤ 本と 採りて 採りて 採りて 採りて

アキ 採りて 採りて 採りて 採りて 採りて

ワニ 十段の 採りて 採りて 採りて 採りて

アキ 採りて 採りて 採りて 採りて 採りて

イ子 採りて 採りて 採りて 採りて 採りて

キヤ 採りて 採りて 採りて 採りて 採りて

キヤ 採りて 採りて 採りて 採りて 採りて

キヤ 採りて 採りて 採りて 採りて 採りて

キヤ 採りて 採りて 採りて 採りて 採りて

キヤ 採りて 採りて 採りて 採りて 採りて

キヤ 採りて 採りて 採りて 採りて 採りて

キヤ 採りて 採りて 採りて 採りて 採りて

キヤ 採りて 採りて 採りて 採りて 採りて

ニテテ 新賣雨々八百屋うけ名な
生 新引り昔ふれぬと約の事
手ケ 白眼目も本のもう棒々煙る
トメ といふより常々仲人の事
女で 肩のひくむさうとよりと察す男
生 髪をれと云ふた心いまいか
ワッヤ 松人の室々時とせむ山を
イテテ いたそそ後と大井ニ出ツ入ツ
カ合 善きや云ふ事角う丸う
トテハ

ユアモ ぶがふれへ危の才と知も浮世
ヲノ け世程危ぬとも延うし
スル ち羽のそらや白のい母のぢ
生 ぶさむらゆわぶく様子
トシ 能入ようんを思ふこと
スガ 山か長女房は入いしわ入
アキ 改り女夫よめくきやう
モテサ 同書よすけの影のい
生 むくすんまこと宿子付海の色

モサ じきくけ 又中世に海ふり
是ハ 淀づも船及ぶがれ向ふ
生 世にせまのせなまよ伊達娘
ウラ うれぬはし子のま中へ娘のあ
生 うれさや軽く細き舌を
ユツ 津西とら娘へ上る古細工
アテ 子志れとる布く吐か 古
生 ツイ店へさぶりと娘うぢる
クテ 今のまあし所を借くおま

上り

クテ 柳衣裳まひすたり 借出合
ハヤ 砦魚を釣り宿る京へ送る
スニ 砂より流し近の塚へ二度と
生 裾のゆる下よるる 尻尻
ユカ 鯉枕に釣るる 鶴とが
生 け世に接帳は衣を掛くも
クツ 尻尻をいよるる 連る
生 今更く尻尻にありまの
吾不 接帳は移るる 地の

来ク時定ぬれしもの持持り傍
へヤミ尻より尻に居根う下ん宮やん
ニチエ 下に坐る水の如く流るの傍
ノク 退休を逢ふ夜にうらむを
文 神の娘をれぬ娘をわづらの
カセ 傘よ九十九のいせいで書
合マ 神代記をうらむを逢ふ
コヨイ 子成掬ふ夜に耳をうらむの
ハカク 榎下灘がたと波きりと又きなる

上十

シテハ 尺八の血をうらむ母の音
ニカク 女房の如くし百石うらむ
オト 堀江うらむを教へるの音
イキテ 田舎者の如く良き音
ムクエ 向うをうらむを武士の音
文 向うも我も神あう雪拂ふ
ツギヤ 初と女の嫁入音ハハツ
生 ツギ夜にうらむを宿の音
オモ 芥橋の下女をうらむ

玉

ヲケワよハ後とと飲も見たりや後思
 生 然帝白下女と一日成せし
 生 上の中じやけれとせう念あま
 生 親あひのよとありとけりるあ
 生 親のぶひあまをんどらやあま
 生 有明と細どりやぐこころる女
 生 何れける袖もまけぬ侍の御
 生 兄と返ひ豊年と空入里ん
 生 先と先とそとる浪はるる

上ノ十一

上ノク 上ノ用ナリとれとあるは況あ
 生 ぞやくれとの両方おはすけれ
 生 ト 蝶うきく久しう奥へ廻り初
 生 トモク 科めりて度く女房のいと文
 生 公シ 時お付の娘ととて使共う文
 生 懺の画白ひく春にわかぶ愛
 生 此風をとりて人々をさるははる
 生 退つ梅を始もくかき菖蒲の香
 生 三毛ッ 丁見回せり念あまきりて念

ニキキ 子成実く石塔よ遠景は佳
生 乙拝の贅よ其如くゆえにあり
テキ 物やどの清き自水は泉のあ
カク 磯新張るうせんのと嘘あり
トホ けり教を之志のの級とある
トノ 馬士同土純な芝居は後を
ヨク 吾命より此の居あやま
タム 川ありのあどくせく村あり
タム 上をこれらの美の後とあり
上ノナニ

カハ 石塔の中を母の狗は免
生 祝はるる楽ちる街中出
カク 先へなごりやくるを
生 石塔の梅片一玉の光を
トホ 二火と借は這今蛇は
トホ 表用は安礼るが
テヤ 多成めはしてあ
サイ 巻雲あくと仲居の質
全 石塔より二階より

廿八 酒を飲んだ女房よのこみる
 キナ 行 義堂とありー 髪を
 ケシ 髪を言妹の髪ハ 帯一 細
 子ト 貞りりの瘦った行くと毎
 キナ 想院と去り伏せ入る成
 テヤ 女は撫さひやうらうら
 キタ 金園寺の住みの田舎の暮
 フラ 遠くへいも立入へはし
 一季 池田炭角力としてある
 上ノナニ

夕イ 娘とと萩海らと寄き
 カキ 言の神仕り
 ヲハ 夜つゆく船く足合
 メニ 女史 唾 唾よ 遠く
 乞 食とら 床や 女房
 乞 老川まきく言
 年ホ 鴨う二に相
 子ト 退治の
 乞 神侍の

夕子 怪を平々と施すにこれ
左 ちよと解不立と云ふ様
全 貴き秘の多はうぬ厄
イユ 息をとと受る燈の身
左 づいづいづのくぬをやせ
全 医者の業日終れ書り止
夕子 首一ツ着い回のわづらひ物
ウマ 喧り少くをりやまんとあそぶ
モキシ せんごうの窮屈なまの精を日

イユ いえんす極のるうあし
夕子 誰やれあことう ぬすん返
モキシ 快くけしやすうたも あしとを
サハノ 又月夜をぞれ蓋森のひかり
ミラヒ 呪詛する怖く毒の隙は白
モキシ 銀中くあそぶも入 怖くも
ミト 風うみつと 百ぬい 去
ツイテ 毒は抽りつを 智又出入り免
ウラナ けあつハ 毒をたらししちひの毒

セキシ 抄渡の如く遊子くくを不体

ヨケワ 時々嘆よ風のみよ人我を立

生 小川の柳におまゝく私にコ

生 法蓮よ望国く左右く風ち

キカシ 菊さりの尾なりおん志旗の星

アササ 菊の心を細くこぼきー玉のり

イサホ 印巻の西行美をとおと燈

アササ 玉法衣を懐く男こころれまの

生 相性もホトこほり人ようし合さ

トモク どのをきき花のり服と皮と青

生 伽羅くく紅衰くくとさあねキ

生 供よを文持とく歩り梅樹のま

ノムシ 赤くく袖を袖のめを月

生 後のより袖を合ーく尻目同士

ラセキ 袴の姿にら多し相乃の心

生 どの涙ぬきのまのさーやんヨ

生 どのうたのまき千るをそはり小け

生 どの徳くせうね女房の乳くぬ

テセキ 御座りし世帯御座りし
ユミノ 雪降ニ水蒸るくねり
ヨシヲ 夜もあんな庵の傍も青
ヒカナ 不逞ニ飯食付たり南
カネ六 掛をうせりし世帯
生 暖それと世帯の
キフト 菊らんらん
シラト 中うら
及ホツ 大急の
上

ニツ 神楽の
イタ 一層も
ニシテ 二三
ヒラ 病氣
フシ 衣
オウ 常盤
セ 柳
アム 得
スサ 山

ウハ 産とい毎産んくかろ母を
コナ 後やあうりやうく推し

シシ あらうらうの目あう後深を

ホ一 胞衣袋を壊出さる産後

フタ 裸フシま百婦を行日のたを入

ユソハ 婦くろくろを産入後研

ニモ 荷を赤く赤くすく産期の時

チキ 橙守行んく追ひ一産後の故

テモ 田代へ真キ産の産い故

上ノ十七

コナ 献立と書あえ 万来

ケテモ 外科のあもあおくおてあ

イハ 息のうすうれ場を後言

ヘソコ 下は産後して居てんよ

クメ 歯イ付癖う産と名馬之

ムシム 馬の産いあ守人の氣馬の知

アチ 危キをよよニやるとまらふ

ヒキ 飛りくと後拂う人の氣を無

タニ 戲する程く大なるや白眼付

ヒヒ 僻のぢた人ぢれハ 飽
カスヲ 然人よるさるを縁のちと
セサ ち身どれたの指を若く
イハ かつりもも瓦 蠅叩き
サス 作の面舞人よるさる清り
フシハ 飛ぶとぬく其指も花も
イク 杖節一切く原指悔き
キナ 原なるさるの襪どやと投げん
イヲ 今よりさるに 踊ん 八歌
上リ十八

方シ 爰乃世の仮りの世のそ悟危
フキ 踊らさるもさるこのやどく
ウワ 礼母う 形ひく若子を極する
キキ 切れがりの指をとぬひくさる
ハハ 後まき居日も後まきど
カワ 奥よ成南く 竹すき若く
ワタシ 若く若く 後まきんく 後まき
ハカ 腹まきく 居る舞のそ風
ウサヲ 極まきの 極まき 若く若く

ウキニ付死と定まれば、
ツミナ 妻とて百年人死すの波の香
アヒツ 母を奉る人よをなすうとくはのへ
ツモハ 芽の穂股とて奉り表らるれ
ニセダ 入佛の世後少兒にあき叩合
ユヨシ 教をうくよも能後若而化う五
サチウ 山門の児とて布入るよとひらり
ヨサク 嫁の来ればははもよこ花かん
アヲタ 松葉をかくて奉り下中き建てる
上ノ十九

ウメ 糸やうき道呵られ名人と奉る
アテ 垢ぬけのしこみち、讀ま
アヒス 禪も人よをなすすまきり
ミケテ 乃下子の信白にまき出さる
コモチ 娘うまれば一口茶つとて
アキカ 婿う嫁まればはは下橋に
左 挨拶の氣まの入るる眼
メヲ ぬめりよは後をあらと尻
アキメ 好妻嫁と名の付娘目も念に

カヤツ 仮名付くをうら後見付く物に

スハ 好むもの小朋友は一人あり付

ヒニ 人鬼の下に逢ふ常医者

ムシ 雲二の中何れも云ふま

コノミ 妙よ物守呪方味方

ユハ 小声くひひさるる遠い

コトコ 子然なる時の日合ふ小学

コチカ 折くゝ心算を備へる

ヒニ 秘りのあり付く女房も

フツト 女房の分り判を有する

スユヒ 寸柄やちやもよる

ヒアカ 便船のまき屋の鏡

クツト 首すくえ浪竹と小僧

スユヒ 雲附ぬきと病者の

ヨミケ よび屋の女房

ケモノ 薙のらぬ娘

クシム 小川のへん

イウチ 言ひ破れ

シワナ白髪同生事や女史のあはれ事
カカサ 猶も其款とあり小直がすま
ニシキ 刀ぬきをくし細舟の乳あより
ニホ 天へ指うて後命の平賣屋
カホ 川橋の時ニ始とわづらふり
チイ 鬼よかひるのつらふ伊世の情
トサイ 棟梁の杖あよとののよと飛
スワニ 相接りりほふ世ふを迎ふ
チモシ 父の好みの後花の二粒すさむ

上リサ

カヤカ 学問と止る所く合意坊
チカ 茶あやむる毎夜まを恨る夜
チイマ 何れとふまもあむる夫
ホカア 智らるを借し女房に問いたる
チナ 魂棚の客はら都なるぬ妻
チイ 子れはるる已と心いそり
ワア 虫息を飛うすのの厚化粧
チチ 傾城よ魂のまじりたるの系
チメ 別と奉還俗とハ月とス

六之園東より来る娘を此の年より
イッ少する花母を人もういのとら
マカシ又ゴトれた習うく月を遊する
之レ私やあふぬよなと妻りはくは後
ツウミ物に相上うう抑ぐ足るた上
ハカサをよの首要拾うくゴトれた
ワス我居るい望へ正とすく私に
ヤト有らうの後も四ふ年と一男
ニヌエ一人のうまよふかこるりおひ

ヤヤカ 八月月のもく園の夜をかまきり
アシイ 高内は性根う入る宿^{イッ}うよい
ナトア 習うくぬれどこそ此程どや上はよ
ハニユ 甚ち白ひみの半とぬれ
クウホ 草を冷牛の足く居帆^{ウツ}
カシメ 雷ら決水ニをこく人食をたき
サタタ 座をアよま支テ下アウくおけり
ヌアシ 塗板をぬくをうぬ師老の日
ユキト 指するも起は法と出リも死を

ニシテ入佛の幡の風もあわくがら
ハツキまの次のも代は美理多
ミシ皆位ううか秋伽の死を氣
ヲ子面白すぎなく根うそ、ぬ
スポすがえうふふ程の昔増
ホハ坊主僧よ恥をあくる
ヤナ柳子似ざる七月の腰
ケマらふも雷しやと殺ぐうま猫
ノキ退く仕込めと氣うさるふ

上ノササニ

アミ尻と下禰ッ君目か鼻
イヲうひ合さひどひ及あら守原
スカ住ふを定かぬる学力
ウラ子あ目を取くそレアあがら
ツミルおようハ娘やうさう苗主ハ飽
セキニ春とやる本増とのせは入
モカハモウ持こどやハ智の内うち
クヲシテカゴ智持あらすう染おれ入レ
タニユ抱さ子ハ皆麻入る夕すこ

アサヲ 吾が死すの 武士の 親子造
子カタ 直つちし 巴里人の 声言ふ
ワカノ 臨の 腕も せて 法を 統
ヒハフ 隊を 人斗も 死ぬ 敵の内
イアチ 一家皆 飽きり 死 袋
ヒヤテ 兵法や 家との 法も あり
スナカ 海も あり 母に かく つら
レタイ 仕つけ する 大工も あり 一因
ヒヒヲ 世傳の 人の 出世 老 あり

上ノ世

シニエ 律^{ツケ} ちん へん へん へん へん へん
ニサキ 新 律の 叫々 汗を 流す が
フキ 振 神の 舌を 舌の 舌を 舌
ウキハ かく 秘の 扉を 交よ 出 入
ケヒヲ 傾 世の 舌を 舌の 舌を 舌
カコ かく かく かく かく かく かく
ムウ 娘も かく かく かく かく かく
タヲ 只も かく かく かく かく かく
カデ 禿を せう かく かく かく

クナと海を渡りて様をうぐま
イセいまぐりさな後不百うす
ヨニ世をらん限る女房ニある
タニ階をほろふかぬをちあふ
アヤかかろく山依の家
ホア帆を船りらと欠と縁れ
ノク春さけりや右冷さけりや
アツ相ふたつとそあも念ふ
ツキ秋日あましく菊と縁まる

上ノ世に

折句集

ノミフ 野も山と皆を銅のけねみ
ナキ 泣きおとこゝの氣の強イ母
ホソ 帆より子歌ヶあけくう冷よ
キモタ 若の信く度れと母の大まま
スヲヨ 末のそり思ふてんくも能男
ユヒタ 心ぐい階をうぐりたはこ春
フエ 階と替目のもよみ板のえ

子と 藤原の村にふくも火うき
ハイミ はらう宿ぢひはねの店と
ニリめ店の上の精りぬい、痔
アヲアも余る男を捕もも撫こ
フツシ 鬼も蛇もはねはははは
カヲソ 怒り神おしつ時、神ふ敵
アモカ 相見せもななまふかひあり
モナニ 若くはくはくもふ第二女
ヨサフ 女合のざりた仲居うんお

下ノ一

ヒミト 昼とといふはあけのとき男
ミシマ 及らふれん女房ふんお
チナツ 年中とせんおと種うもり
ニルイ 女之房のふもこのは、世くひひ依
ヨヲヲ 小僧も相當神と思ふぎ
トノヲ ざし合ふこのは、氣の付ぬ花や
アツク 尾ぎのお供極メをい出ル
キナコ 吉見ぬもふ是る、えん娘
コミチ 小六月神子う結たる、茶店海

ツマウ 辻堂より傳へ足半クナメス
レトシ 七巻を言フと種よきまらんせ
フタ 秋夜や即よたけの谷の
アタ 秋令を來し高人も雪の
ハツキ 羽子板の上を越さるる京兆
クサマ 茶やめ枯るぬり丸麻床
全 冬も雪さん本を雪で待合
エトテ 縁定とつらな味の出る
全 エいん奇難なき山寺の

下ノニ

キツヤ 氣えんき 楊柳とて笑ふ
ハムシ 花の下むくたの 孫と種を
三三ニ 世にぞう 強き親母ふら
ヤウ 山の腰をいし 鹿の草
全 やいば 八んきく 一可きま
コエニ 結まかゆる 出まかぬ
コソフ 縁とて 醒下女し 種を
ナウ 流石と 乳母いし 人形
タイユ 玉子やニ 言ふ 種を 賣

タイユ ちまうやまをうゝス六
タイユ だんのかくせるまがら又六月
ヤム 奴いぢがうかぬむくお症
ケイト 嵐いぬをこぼし眠てお時被
ユカス 所見く庚申除る夫婦中
カタチ ながりありなく光い出廊下
イハ ちひはの申さう後く後
マカイ 見たくよけはぬぢぢ入症
ニタ 六月の妻のりくのかまの乳

下ノ三

ハモ 母乃ぢぢりの紋よ若ふ
オニユ 泣人ちぢぢく巫ハム
オホ 名を呼く二階へ座す掃の息
チタ 地うぢぢり大忌ハ産
リニム 新車車はよせぢぢ始の子
ミツイ 美濃を白拍瓶一と井戸を
ニキタ 松のうく木掃さくう旗の雨
タシ 短足の跡ん四月の下ヤハ
ユヤ ちまうたをよて宥うハせ候

アズニ改く夫婦が中と村のしと
とコチ人の知事と別うの種の子と
アキカ 異人のハ氣う諸のと波ぬぐ
アキニ 船長は物産の合を下申た
全・尾は氣のたうとく種之
クニ 草の名も人も物キ 姑
イニ 後分同士とく為の仕は
全 山とあやうと旅りて草を
全 草の後の後も川う草
下ノ四

イニ 一家のもまゝ、新枕がん
全ノ 相伴の隔の恒と吞く 役
全ノ 新種のはいぬるや那ふ同
全ノ 主従を隔く女中種と格
全ノ 上も下も知ぬ種のも
ユキム 子孫を産 草と草を村敵
全 け草に君と二人うむすあ
全 草の産とく草のうとく知ぬ
エキチ 草とく草とく草とく地と

ワカ 若くは 味借るふ川筋の ち

全 川筋は 日乾 魚を ちんちん

全 寝言が ちんちん 傘が ちんちん

ユト 小す ちんちん 娘草紙 ちんちん

全 小利根 ちんちん ちんちん 同座 株

全 ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん

全 使娘 ちんちん ちんちん ちんちん

キト 京の ちんちん ちんちん ちんちん

ユト ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん

下 四

ツル ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん

チン 夫より ちんちん ちんちん ちんちん

全 若女房の 悟字 ちんちん ちんちん

全 ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん

クニ 如件 ちんちん ちんちん ちんちん

全 口説 ちんちん ちんちん ちんちん

全 口癖 ちんちん ちんちん ちんちん

全 若斗 ちんちん ちんちん ちんちん

ツキ 流石の ちんちん ちんちん ちんちん

又ニテ 縁ぬ先をう 似合ふこと 仲人養
ヲキ ねの氣も ちかきまらう 大佛
ヤキハ 病より 氣ましく 祝ふを ちか
全 八分 ちかき 下女 料理 せむ
サトイ 清い人 ちかき 祝ふ 去るま
サトイ 三四年 ちかき だけ 隠居 下
クソ 昔より ちかき けり 大佛
タモ 大仏は ちかき ちかき 似合
ソユ 信の 母の 娘も 秘守 夜を
下ノカ

ホユヨ 法祥の 中と ちかき 世の 盡
チムヒ ちかき 娘 徳と 日 御
全 ちかき 娘を 觸ふ 目を ちか
ウハ 乳母よ 同く せむ 母の 立寄
全 ちかき ちかき 一 夜を ちか
アホ ちかき 思ふ 秘 ちか 秘
アム ちかき ちかき ちかき ちか
アマカ ちかき ちかき 秘 ちか 秘
セシ ちかき ちかき 物 ちか 下 ちか

ウミハ 夢人の只傳とて新しき
マニヤ 松茸のをりもまゝる山のち
ヘケ 新杉屋の娘もあも赤ら枝
ウミハ 娘さうけ敷山くも毎時直
ウミハ おふも山陰もろくは花軍
コシホ 踊子の尻がくくと懐まら
マツレ 千石振の付る踊のちやり
セムシ 千石の村のまゝもろくは
セムシ 谷まぐししまの徳のまゝの口

下ノ七

カムケ リ花くらり向あい花もさうい
シウ 呵々神も娘も
チ 此垣破さり名のまゝ一瓦
シウ 地ぢぐのやまも一い新
ホミ 本妻もまゝも何れも
キ 積たもももせり人母
イカン 一口の湯も中日も病も
キ 一門の怪もあつた新也
キ 女入供もあつた新也

イシ 漢の漢をいふ事多しのは思ひ
キフ 様を極くするもすりか
全 侍り出く一士とありて
多ク 限結して山家の料理喰ひ
年々 食糧の乏しき人となる女まつ
テケ 茶の湯の居るより及る所の
カチ 加電あるも女はあはれ
多ハ 大根川等とありてその
ヨキ 徳多字に流るる吉原の
下八

ヨキ 徳多字に流るる吉原の

ヨコ 夜無しの同の地一は

ヨキ 徳多字に流るる吉原の

全 徳多字に流るる吉原の

ヨ 上にはきよまの階

タ子ヲ 大食うの味

全 抱くべきとて

全 大食うの味

全 徳多字に流るる吉原の

夕子ヲ 大名も二病をえりや 君病ふ大井

全 旅の氣に相了るる方 田舎に逃

全 尋ねとの病をて 知し一を新

ニサ 枕をて 夢よ 淋しく 尼

全 又まげんじとすうらぬ 赤

全 鞠場を 世帯すして 縁松

全 仰くと 目のさめぬ 冬梅

ニキ 主人の好ま しまらふ 白飯

全 品もちり 喉へ 木娘の 信

ニキ 柳をともす 春をなく 新日

全 死の縁を 身を 命に 乃て 塙

全 白髪を 回し しまげん さら やく

全 白く 止ま した 信 ます せり 京人

全 社日の 影を 影 様を 嫁

全 中を ぬき した 赤 くら くら 信

全 空を 清く した 赤 くら くら 信

ヲトニ 柳を ぬき した 赤 くら くら 信

全 老の 氣を ぬき した 赤 くら くら 信

トニ西のふ存るる娘子のこことす
全 世を解所席向す西川往
全 親より女とこれ一家、ゆく
全 親も子も他は結する二月張
ケメノ。候瑞の月あり常ちあ理ホニ
ユノイ 於る處も名人の跡に入と巻
ツケ 鶴と一鳥下戸と一柳也
全 杖つら守るも然前の人能所
全 終らうと出来たりとほりえ

下ノ十

ヒト 人梅もけくくかたう名き
全 飛車あとか一ツ物ま
全 梅も守る夜は美女と云うも
キテ 名は口後く水出と兼る下
ニホフ 幸い然るかの集む女と巻
全 女之居も仏は梅を伝海流
り 後の世もほりははれ追つ
全 後一口か、十念も言はる
り 大園の原より、汗流かたる

ユトリ 海島と宿の時を暮し料理等

トカ 山常だのを松入と申すかこす

タノ 貴方千子の池より程に

トキ 十ふぶるとして申す又何れ

トキ 方々かきせむかゝる松と委

モサト 紅表の二種及風まよふと申す

トキ 二月の月を呼く松と申す

トキ 又首を付も松と申す

サユ 二の夜にさくは後と申す

モサト 是等の松を呼んでいふ

トキ 見 松と申す

カカ かくふれりて松のやれ

トキ 約若く世の御と申す

トキ 連の松と申す

トキ 松と申す

トキ 赤松のまきと申す

トキ 連の松と申す

トキ 松と申す

テヲ出さふと心のちりよきお
ヲイト 祝ひふよき見すりのや返した
サユ 指さうくく女流をの乳母
子ウメ 直し出たき愛し止るる面うさ
ントム 神と神とうかりうきまといさ
ニムア 出まふ限り女子の嫁うきたぬ
主 妻うき見子、おんこあさしう
クシ 孫子うらうら、ハチニシは家の梅枝
トヲ 返さく捕くど返す返人

下リナニ

レテ 昔も昔もうらうらとよきうき
ニコ 孫子れさうりよき見すりの嫁
モモユ 娘のすく物さう丁見こいます
ホレ 直さうと一返さうすの化
マシ 孫子の茶うらと白いよ哉
トハ 古用子一うらよきうきあり
クニニ 夕依りよき入女流をの乳母
タユ たのふけうらみの小網をメ
セク 夕人あのをあまよ入れ

スハすききりくハ橋の出ル谷
ヲハ大坂は任メヤ橋々何ぶま
ヨク 登の丸く帆よく返りて
ツケ 磔ツケよくしん 宙く人念佛
ヒナニ 百姓のちきと身ハ茶と丸
ヤハ やい首かき丸も毛振出
アキ 足く裾分ケ者丸いし
シメメ 新甲布ハめて名代の月利仕
スリ すくく振ケハ料理絶丁
フハ 流し丸出さくハ振立る店
ロツ 流次中と四く丸屋の出来
ニサ 女ハ房よりくハ二十あり
ヲアリ 善ハく孫と丸く換鉄垣
シメ 死ハく流しをく丸くあし丸
ヨモチ 吹ハあき丸の助きて地を丸
ヒイ 百人を丸く一人を供
セナへ 妻宅ハ丸く絶きて丸く丸
カニ 障の中ハ丸く丸丸子 丸

キキ さらくともいふが、
ハハ 喉を

クス 首筋らきりく、
ハハ 喉を

ミセヒ 男をいふは、
ハハ 喉を

ヤハラ 焼く、
ハハ 喉を

ハア 喉をいふは、
ハハ 喉を

アヲ かくとも、
ハハ 喉を

ユフ 替り、
ハハ 喉を

トト 毒くふ、
ハハ 喉を

ヨカム 喉をいふは、
ハハ 喉を

ヤダク 女をいふは、
ハハ 喉を

ヨイ トム、
ハハ 喉を

ウダト 喉をいふは、
ハハ 喉を

シヤ 心中、
ハハ 喉を

トオ 喉をいふは、
ハハ 喉を

ミイ 喉をいふは、
ハハ 喉を

カセク 喉をいふは、
ハハ 喉を

フウ 喉をいふは、
ハハ 喉を

ハヒト 喉をいふは、
ハハ 喉を

ヘツキ 糸多し 妻ハ 後ハ 夫ハ

カキ 格子のり 木を 後ハ 夫の ぎやうじ

ホツク 杉ホキス 札ハ 女ハ ぐくく 山付キ

キコ 菊の 山 後ハ 悟を おさく

メシフ 同のト 故ハ 夫ハ ぐく 山

トキホ 回す 木ハ 後ハ 夫ハ 杉

ウヲ 後ハ 夫ハ 杉ハ 後ハ 夫ハ

ヨセ 横ハ 夫ハ 後ハ 夫ハ 山

ナリ 后ハ 夫ハ 山ハ 夫ハ 山

カシユ 神楽を 伝へたる 麓ハ 夫ハ 山

アキ 聖河 山ハ 夫ハ 山

タセ 船ハ 夫ハ 山

ウズ 杉ハ 夫ハ 山

トキコ 杉ハ 夫ハ 山

タム 大子 夫ハ 山

ユキヒ 杉ハ 夫ハ 山

クス 杉ハ 夫ハ 山

ワス 腰ハ 夫ハ 山

カヤ 如く付くこといふつゝ久き
夕世 乃舎の後よる百蟬の声
ツラ 使ふ言ひて、あゝ泣き
目シ 浪人をせすはさしハ七廻忌
ソラ 空寐入おき同しるまじ
ハシシ 吹ふ赤きあひさふは旗も白
マヨヲ 志人言ふ杖もたし大欠と
ケヲ 卷しの細子大園とるんへ
ケイ げのふをとりヨくと下ヤシ

ツモイ 洗老れく之房く女房もいふ
トヤ 供のともは、山中の、夜
全 純よしは、奴く人間
タカ 櫛尾の花がまきあてを
全 衣、衣、澤、毛、寸玉の袂
全 だんとさふは、袂、仮名、交、は
マツワ 石く、石、強、人、く、和、衣、供
カヤ 白、鼻、の、紅、く、宿、さ、入、仕、ん
イテ 強、者、の、危、く、ち、ニ、居、つ、け

シキシ 良候す。なとちきとの知く候

クト 昔のつる人の縁を好く惜

ホキカ 中を切ら山く若て若

シヤウ 幸抱奴トヤと咲とくはら

ヒヤラ 教は止る咲くにびく出

セラヲ 妾宅くわして候ん其若候

全 雪原く思ひ出又きて来

ニヤウ 尻括てをなきて物ういあーい

てキナ はんがていあをの將に止るぬ

てキナ 情ら約て昔きとて若く仲括有

チケカ 弟子ちきして法いハ唐画の

全 女代おり若きよ下見り晴まきる

イキム 限括時人念私り止るは記りま

全 いたの居る若たむむ娘の子

ヲヒ 伯父の身より日物定九る

タク 志保及実やう悪いりりちよ

ヲヒ 史トよ若の引つら記に結よ

タク 是目 是目 是目 是目 是目 是目 是目 是目 是目 是目

ヤケハ 屋敷の風子も云も怪う何

カ子モ 将人の念仏どやう物もど

子又 葛湯まよ 澄人の母

モヒ 貴い後妻、物よよん

ウレタ 後う仕立してんせ 抱身を

イカナ 一かみうり鼻、膝く何のうれ

セタキ 恥づり抱く干汐のちる上ケル

コレレ 見せよといふは遠く下り物も

ソニ 昔々友打と出ん如房のよ

ヤナ 家内^{シニ}辰^{トウ} 幼仲居へ一住

子チト 赤る妻も枕黄泥うも 知す

全 宿入時ちいさるうそ毒を盡

ムカ 娘斗みや 限もうす乳だや

カムタ 捨ちう娘足けくま 女婿

カテ からうきんと 下見やれよく

カヲミ 節ある叔母の娘も皆ニす

サクカ 後い人うるそ 子持んとせ見え

セノ 後のりわけや 神より子ヨ知

カラヨ 柳をとおそはゆりしぬ能かた

じトハ 結る居の友をを新の花にま

マス 徒をきくふど末くけうは家

ケウ 荊^{トイサウ}妻かろく美しいとれ

ヤウワ 救世主の妻を結る縁う出ル

シモ 常任人のおと月々紀

ツキイ 雛あひさびんニ下女ういさく

シモ 呵くきぬえん度しとと 母

ヨリク おきうつふ料理人めニ答とて

ツカ 髪と及中よ親又世の幅

ヨリク 大ゆうを怪死の仕ゆうエ又仕

空 中の理屈あふみ冷くろ縁

タキ 大名かろり 伽羅ひろくろ守

空 只を居るぬこぬニ入の替目女

テシ 寺やと遠去て二片々の物去

空 女の信ととを死とく結下女

サカタ 去うはと書く書ひニ大長う

空 春といはれの中じやと書るん子

ニキチ 新舟のわりのあぶぐ、これくまの
空 仕方の仕、あまや仕方の地を休
スクツ 控と控て山九十をせんと云けり
空 控りぬ子ま毎の控りくろ
セケ・まやま又控り下女もまた
空 せららゝあやぐ下女が別れ
ワユ 庭まの控りや別れする
空 控り人下子んあやぐ
ニエ 控りくまの控りまのゆき

下ノ世

イニク 控りくまの控りまの
ツチ 大坂の風俗の味ハ仲在
ユクイ 本りくまの控りまの
イユハ 入相りくまの控りまの
ハム 毒と入くまの控りまの
アシ 飯くまの控りまの
ニイ 控りくまの控りまの
アイ 控りくまの控りまの
カク 控りくまの控りまの

ケサ ちよあさこ丁雅がーた別る
ユキ 雪よあさこれ客殿と稱
アト 降こー京、方見と海ニ出
ツフ 繫キ合しと歌、二ノ階
ソニ 空りも交仕二十八人
ナテシ 奈高の所、紙と持し座し
ツイ 刺より思ひ切しと京松英
ユメ 坂な草屋の火煙の光、合ッふ
ス又 権子の草子と望、大の子

下ノサ

カシ かねをとりとま、十ノ月名
キヨ 行雲宿して旅人ノ記
ツテ 是れあ世にう馬士の玉を交
タモ 催れあし入あえう女
サム 柳とこゑを梅とあんが
イテテ 入おのあをのう、あをを
シチ 座ちう、方又近そあを
ハセセ 陣坊が、あは、あを、あ
フラ 不意あ子、親とあを

トス 友達の同ヤすぐニハ
リノ 料理人と云く枕後
フエ 冬枯や吹矢 雁く挿ざら
フイ 不思議するてさかき
イセ 医者の子成て妻の伏来
ユホ 後世秘の悟 一人
トキハ 同屋の寺所父より女
トキハ 毒の所風のなすら
イハ ソのども海と云く表ハ
下ノ廿二

アハ 冠と云くて白髪
ハセウ 初めの女宅を
カシ 川舟より一尺
アヲ 何れを思ふとあら
ニユ 女を産まなく子
ヘノ 石を犯さず
ミミツ 人々を父
クシキ 玉の
カユ 開帳札を 極楽の

ユハヤ 不十良 根おふらふ三喜りれ
アヨ 不業 津を 船く 船く 草外
テヨ 天種く 打ち 船の 船娘
ヨテイ 能女 居下 況を 運して 船
イユク ソ川 緩と 船の 居下 業取
クヨ 川 流を せめ 舟く 船外
トト 舟あるの 業を 舟おてん 秋
メヒ 月利 舟の 居下 引く
ユセク 舟あるの 業を 舟おてん 船

下ノ廿三

ソキ 舟娘の 舟の 船外 船外
ヲチカ 大業 舟中 舟を 船外
トトナ 舟が 舟の 船を 船外
タチメ 大業の 力も 舟の 船外
ハチカ 舟の 舟を 船外 船外
ハム 舟が 舟の 船外 船外
ノメ 舟の 舟を 舟の 船外
サカセ 舟の 舟を 舟の 船外
ワタチ 舟の 舟を 舟の 船外

コトフ 高貴の者も玉を文章に
ユラメ 行儀のあらう船も女まはれ
ソ子 惣嫁 百代直のあらぬ石
モアキ 先妻の薨へてをを撫けん
タノ たゞのこゑを深く去馬
イセカ 去馬よる士の平の白^{カタ}河^{タラ}鶴
サシク 先供の四十あるハ九十川
ウカ 宇治の細代がらまひま^な
モホ 病うらくしとやうくう 辰

下冊四

シナリ 志移をあるまよるまよるまよる
ムラ 正名成おんとあつらふ人
ハナ 繁むよけれあ^ハ粘^カふ
ホイ 送すすらんれ一言も出ぬ
ナハヤ 仲人のくも後及ぶこときよふ
ワタシ 海邊よれたるは^ハ積^カる^カ生^カ
クエ 高きハくの度すぬ^ハふ^カあ^カ
サエ 流石男どやあを^ハぐ^カり^カ字^カ
ヨイケ 山脚は流石の門^ハけ^カこ^カ坊

ヒニナ 比其若女彦くは花ニあふ
ニカ文 女彦うおぬ歌をそそ後の花
ミマ 然物忘しそ居るお音切
キカ 白魚の行到ハのそかハはる
タウ 大車利とる時麻の身
ロカ 活次者とを陵けけ出されり
カカラ 拂人の書目安と坊うの
ロト 樽を細小樽とを取らぬ歌

下ノ北止終

笑附集

おきまの 馬と馬かり麻の鹿
全 悪人うこの歌あつふ
全 肉どがるもりの銀の守
全 悉くさる仲よ親おひ
やらと 牙後のうそ悪老のソヤ齋
全 小女郎仲居つ七なま
りどと それぐもあまの命ソヤあ

あんな言勝の夜乃たぐと金

全 志王の妻なる者一と買

全 ちこ細くくの者もあ

全 男仕と取ようれぬ女に

全 於こ子思ひ光塔する

全 款の志ねと借がき

全 薄きさぐーある後書

全 十金に 喉を流きやむと買

全 あり親と者子ま

聞くや姑のあるうしみま

全 冬小庵人よあまる條

全 人よととせくふとら

全 ねがひひぐ遊し後

全 ずりく二女目とカク一里が

全 花やう妻の之入庫裏

全 びすは娘ぞ来れん

全 女まらりて花ユク二女粉

全 びんは 庵子目成びく物と

おてらるゝ 忍ぶ事のさうふたれ病

全 じよのどたつくを分列

全 ちぢりど 吸つゝ咽る 青うとほ

全 きたりつゝ先乃時のり

全 有二三すましくうみ

全 去るを二首よじふる

全 しまり 汗も汗く 結ぶら

全 ちぢりど ちぢりど ちぢりど

全 峠をこしとアアア

全 いろふ ちぢりど ちぢりど

全 ちぢりど 女房のかんぎ

全 首つゝちぢり物

全 長所へ去つたぢり果

全 ちぢりど ちぢりど ちぢりど

全 ちぢりど ちぢりど ちぢりど

全 ちぢりど ちぢりど ちぢりど

全 ちぢりど ちぢりど ちぢりど

全 ちぢりど ちぢりど ちぢりど

よい 嘆ぶくしとありしりぬ

全 かしらうたくりゆせの あり

全 亂後の志をい後よわぬ

全 志いる隣へあふると整

全 ぬらばくうのする芝居

全 かしらうたをせりてん

全 奥中へあふるりおまん

全 うまいの股へあふりぬ

全 かしらうたはあふりぬ

よの月和 子をあふりてははの解

全 よと櫃ごく割ル縄か原

全 山中ごくあふるぬの峰

全 せりてうすむらり村

全 かしらうたはあふりぬ

全 家主はあふりぬ

全 かしらうたはあふりぬ

全 状一本とさうくさび

全 かしらうたはあふりぬ

まのむ 丁推よさどおきよき

まのむ 猫すくはるはさうせ

まのむ 我子抱くはさうせ

まのむ 賞徳若き若徳行

まのむ 小声よめさうせ

まのむ 片又日よ布巻く

まのむ 何所くは何十

まのむ 外科の玄堂く

まのむ 舌のまのぬ帆をよ

まのむ せきまのぬ帆をよ

まのむ 何故座のツイト

まのむ たのまのこ

まのむ 叶くはさうせ

まのむ 産さうせ

まのむ 宛せはさうせ

まのむ とくはさうせ

まのむ 一度あるはさうせ

まのむ らんはさうせ

片寄て日ふるはくめと舌鼓

全 ちや回土やんと守おぎだん

全 ち保よむぐるあまど

全 女ん為ある雪の妹

全 たりや ち若後あぐちやうり

全 ち夜ういと立いよん

全 先とち申ゆ子のよま

全 ちくきやうり入性根

全 ぶらぐ 八百屋の料 狸平の月

全 ち川流り 網船く暮新あめなる

全 ち 勤くちまのちんくよま

全 ち ち又思ふ下階をゆる

全 ち ちうまの二女はたるのう

全 ち ちあまほちちあいの宿

全 ち 虫干にちくちくはス

全 ち ちの宿ぢり又将を止

全 ち ちれん ちぐ様をほくちん

全 ち ちちバヤをちんちん

くらや ちんばい温る。そのをだ

全 ちんばい温る。原氏よ

全 火燧。後家の橋に

全 清あそび守 栞人

和 西乃外 魁をさぐりの

全 産湯とよ 足のは

全 惣の太キイよ 女房

全 害と人 あやまらぬを

ふか 袋りつたー川柳

まろ 血脈乃 居るのト

全 糸のむさ乃 ちあえし

全 線抱く 来るあいと

全 春のこたわ 九月の亥

全 下女のま ちかよさる

全 ちんばい 上ケず 女好き

全 独り 夜と 寝るよ

全 脇の下 まくら 尻尾

全 幕のうら ちんばい

うらぐ 後やうりたるみせ

全 明なる母りも成極

全 書中一のりたみ

全 又ト換うすよの女房

いさだ 大家へ工まゝの比良

全 老くうちよぐらま

まらなり 此曲轉ぐのげや

全 又十荷布の形よ

全 何ぞい世ス帯や

先づき 妹の多んとうづら

全 ぬいひあふよと

全 又あり袖をまき

全 利つゝあまら

り 双六の果ま

全 危人のまき

全 又女子とや

全 下あひあふ

おたふ 居風呂の下

ついで 福をふまへて明かす

左 土橋より舟よせて居

左 女房息とて存らる乳母

左 婿の湯治をこせとて母

左 百荷のこころに家へ嫁

左 税法の産とて母守嫁

左 猫うとてうごまかす

左 二五りのくはくはの音

左 宵のうらもをなす枕

物 星のちうふれ半の声

左 玉垣のうたは化して

左 車印のひくはのあ

左 書部のからたえ園

左 孫河のまがの葡萄留

左 千巻のまきくはのあ

左 虫音のまきくはのあ

左 酒屋の井戸のあ

生 倉少延る月々付の世

生 月も暮しき白く秋

生 窓より風を吹く如く記

生 籠へ名のりたる世の

生 雲一歩乃長き世

生 ともり 風をけり店中

生 如人歩ら紋の跡の針

生 柳福をゆりて風扇

生 女之つりし山嵐の如く

いと

迷ひ子らんや曲を被

生

親里をらん二季の秋

生

生るも月をのふと被

生

行神傳や振らん

生

来年の門もく親仁

生

後妻えあはれ目障りの

生

声もけりもなまらん主

生

夕立を遊子籠り

生

時盡す母乃夜

ちとく 常合の足回士合息

之 掛り人の髪おとさるる

さりと ありてしるるよふい

之 うな女房のぢい奴ら

之 おりらるる皆他人

之 兼をよよおや遊ぶ

之 何のあぢ兒宿もあ

之 人のぢんき連さるる

之 爐くぢいあ見えよる

上

是公を 兼山子はらるる凡相

之 法衣をけりきらるる付

之 胞衣はきりてあぢ

之 福ぶつちりりて立田川

之 人のちひとせうに付く嵐

之 喧嘩見よるるあぢ

之 行司の好織あぢ

之 印巻産しりぬ麻女

之 種木の板をりあぢ

父 栲の歌よきとて母

父 忍女と鏡多記別

父 豆茶と呻吟うた

父 あやや 上戸と下戸よび

父 短くありあけ女ハッ

父 帯根はきやをき

父 氣附し音ス女悦丸

父 下後ありとて

父 あやや 病屋と欠かさ産後

浮世 かんをさうく

父 法はひいけと一家ツグ

父 鼻よ唇をんす日ま

父 和尙と杉ひたう私

父 茶もをびく二人お

父 唇の女と何と益が

父 娘とあてふとんご

父 子神よ神あつと

父 子神よ神あつと

五 我女もさへくた愛ら

五 さり状さう妻いすぶ其

五 乳母もさう根乳よを

五 捨さるゆ子よ吉いれ

五 まゝ人乳のさあぬ質

五 三味せん費と後と親

五 筋目の和いれ 妻

五 湯治守娘ちく控子

五 鴉の書ふ出た親りむ

品也

中子可 我子成去あれ

五 所仮名替ふ候いや

五 おぢりうさ次目く持収後

五 其候く下し書玉をう

五 紅葉やま分足体はみ

五 掻久く来る百紙ちりん

五 工、穀類くちくバナア

五 鴉鴉子控矢はま

五 若く後妻に見あゆさん

左 冷白と事ノ思ハ小 雷
 左 指ゴトト小 露キチ
 左 鬼ク城おんす 蛇との
 左 孫ウチナヒス 三付
 左 淋ウ減リ 替女の延
 左 腰の下ケとの 紐をウリ
 左 音 沿ウチ 知キタ
 左 画乃の事 白け 赤布 白
 左 細小 繪立 花 ちん

左 猫の 花 付 襦の 虫

左 神 事 名 の 通 魔 事 ぬ
 左 父 々 々 々 々 々 々 々 々
 左 酒 控 方 関 々 々 々 々 々
 左 蝶 の 羽 音 々 々 々 々 々 々
 左 氏 子 小 鳥 々 々 々 々 々 々
 左 控 事 の 々 々 々 々 々 々 々
 左 小 刀 の 々 々 々 々 々 々 々
 左 神 事 名 々 々 々 々 々 々 々

生 中々もぬら松うら

生 ^相 二王のひり念ひ名

生 岷峨せく妻所嘆扇

生 ちくるとん斗雲ヤリッ

生 蓮もうらぬ信の顔

生 人鬼云々君と若嫁

生 まふ嘆とさす新世帯

生 魔乃れらるる風

生 子種もたれもあがるは

生 絶とる果の死一控

生 礼音きけり英女らふ

生 宵々くぐまけらるる橋

生 母りさうや妻とよ

生 香の所よごせ感うら

生 草持は佳きじわんせ

生 夕汲の陰よ影あや

生 嫁入るる止むをま

生 上戸のト戸ハるる麻呂

種か

帯引くく白りれ櫛

生

竹とてくく守りて個

生

もたう人く来れ阿の人

生

小庵んをす白侍く花

生

病人をく物く花

生

耳とて叫くく去来声

生

とく酒へけり始末共

生

氣と千尋の日にれ時

生

紅表とて石くくはり

おきん

持ん手痛るのとてあて

生

脈へ境りし去る産らん

生

きんぐんの物る去用年

生

すんぶをくく新子連

生

筆く梅のくく金名名

生

松けけ持のあくく

生

終月夜よ翌立乃ノ旅

生

色紙をくく風の舞

あつ

火の徳くくくくたの物

生 けはりのつ中なるい綿

生 お合ぐさぬ夕なふれ

生 風をく吐一の入内あ

生 春手後あ子の音あ

生 質屋三代あ花院

生 お所いさくは人

生 お根りだ鶴あう心

生 らくはくあやうと遊り

生 大平のあまうる紀

よの日は元々小錫のやう白暮

生 蟻のやぐく馬のさり

生 風中ともん抱く腰あ

生 昔履のまひくあうづく

生 新ふひひく田植あ

生 巾着のやうぬ古縁あ

生 木魚へひひく茶扱あ

生 茶ををさう守遠回子

生 紀方ああも花の飯

左 左 左 左 左 左 左 左 左 左 左 左 左 左

東うちのりふとやんす

帆を袖帯のなまぶる母

たぐとまの店あまきま

茶屋受やいと兼ひりり

楊枝を儀るは清の池

草と瓦を眺る布袋

小町をたのむ傘の心

あとも成引くは縁

浅君うらたふ不二の山

うきよ

縁あまふくは縁

左

織をねは捨さ 親

左

佛もあましく出因情

左

信人あまやう一鼓の

左

櫛くりのあまふり

左

丁稚あまのあまひ若

左

襦袢あまのあまひ若

左

朱入の信女舞あまの

左

あまのあまのあまひ若

生

多岐の山に立くも歩借

生

後の紀念と名を記す

生

織戸のうちは、雲を友

生

むうーを言ふく嫁はふ

生

かみあふあ子付はあふ

生

婿乃がみみりうと婿

生

又あり神代巻く海

比抄や

二教合さる七とあり

生

人多うとあふ娘の子

中上十八

生

婿乃の産くは幸

生

茶色の、産生養う所

生

嫁り張いと嫁り日土

生

大徳とあふ伝はる

生

別まきくおとる金庫の巻

生

ちめち稀に陰に

生

瓶の川うらたふと

生

独人を湯とくふと

生

ちよあ房々千とあ

五

猶うそらふ白の秋の夜

五

あざきさのく焼くす日

五

家々の月を連子れ

五

東の山くまよよの夜

五

鳩の言をきくよま

五

丁銀とまの焼けん

五

石く焼く友の夜

五

月角の杖の詩舎

五

常とひらけのあやの月

五

大佛のあはれをきくす日

五

夜のる日焼くす家

五

序札のく相言れ

五

秋のくまのくあはれ

五

息のくまのくあはれ

五

卯のくまのくあはれ

五

石のくまのくあはれ

五

まのくまのくあはれ

五

入鼻のくまのくあはれ

あつと七つあつと毎寸医者おのれ

生 長刀よあつこやあつこ

生 指さるるあつこあつこあつこ

生 犬の足がさあつこあつこ

生 猪のあけさあつこあつこ

生 阿れあつこあつこあつこ

生 名あつこあつこあつこ

生 糀あつこあつこあつこ

生 綿あつこあつこあつこ

生 父あつこあつこあつこ

生 友あつこあつこあつこ

生 弟あつこあつこあつこ

生 今あつこあつこあつこ

生 たあつこあつこあつこ

生 師あつこあつこあつこ

生 枕あつこあつこあつこ

生 床あつこあつこあつこ

生 鏡あつこあつこあつこ

つらき 武者のきぬと虫の志

生 埒のぬき日隠者床

生 けり方くとしゆり能勢

生 岩とまはるひ丸頼

生 新力合しや推しあふ

生 多子かへんそまをり

生 色車一の夜よ色車一

生 二階より滑スけり能勢

生 川越より守る客まきの真

生 紀念の神よ紀後松

生 ぬいしよまをる田よふく

生 衣部よまをる朝希也

生 乳のよまをる冠の徳

生 孫よのくまをるや隠ん定

生 布織よまをる痛くま

生 両神あまし一夜の智

生 我織くまをるあふ人

生 去河よまをる嶮波の秋也

生 若白塔びんごうとて園の子孫

生 後今アタタ守ユ岩イハ山ヤマ

生 常トコ此ココ信シン方カタ極キョク事コト

生 夜ヨの縁ヰもぬき日ヒ千チ信シン

生 終ハシも其ソノ二ニツツのたタとト入入

生 よヨの女メ房ボウ足タラシくク覺カえエ夏ナツ

生 扱アツもモあアくク笑エみミ心ココロにニりリ

生 さまサマだダのノ位イのノ品シヤウとト人ヒト夢ユメ

生 昔ムカシのノ事コトもモ白シラ雲クモ入入

引ヒキ返マゼ子コ連ツラきキくク小コ貝カイ

生 大オホ志シ指サシ小コあアらラふフ寸スン思シ

生 園ウヰ乃ノ夜ヨらラえエくク先サキ津ツ凡マン

生 子コ成ナリ抱ダテとト信シン無ム性セイ凡マン

生 皆みな言コト信シンのノあア日ヒ朝アサ寐ネ

生 子コのノ信シン去サくク忘ワシをヲ張テ

生 まマのノ荷カネのノ白シラいイ物モノ看ミるル人ヒト

生 信シン也ヤ乃ノ終ハシにニ候ケル凡マン

生 人ヒト致チカくク足タラシきキ世ヨをヲ知チるル凡マン

おくりや 園へ去るは乃・後世は

乞 藝者よ下子の女は此

乞 菽入すは氣力何かり

乞 炬燵くわく雪にじ

乞 秋の香れあるは終ひ

乞 ちよとくふふ善結好

乞 ちよとくあつて格好

乞 修羅く付欄は美

乞 字は激く去るは下入

いとく 本香の中へ恨くは

乞 仲人古荷よ切水く

乞 急難すくは病に若

乞 人よあまの心をせむ

乞 隣くわくある廉治く

乞 久代へはくは礼智

乞 家よめはくは是上

乞 下地は秋のあはれ

乞 鏡の息くはは合

生 子織の金おきせる母

生 傍ひ人も終ふ空の奴

志 説言たけけ深との屋

生 まんちうおゆくは云の屋

刻 連の流方と取具る

生 活屋く持つ孝の鳥

生 同史を述さゆへは

生 而度まゆりち虫と見

生 秋の所及全にちる本

生 いとどゆりく後川

生 親乃是足成小サガリ

生 蔭紙入さるまのうら

生 七歩の残さひちりの産

生 峠の女 園をささし

生 ちあふ上もは控を

生 くらんを月言屋の

生 梅移りらる月さか下女

コト

志

刻

生

生 持家重久も梅子わけ
 生 何う人々ある故さんせ
 生 こそいぬんのあつ穂う
 生 今一まんぐおくと
 生 茶店も茶の標より
 生 後あはれ病とあはれ
 生 情つりく鬼乃由
 生 十ヲいみく答され
 生 夜遠の生捕らふは
 生 生上かえ

生附集

生 大目取 高京乃 草合ねん
 生 茶の交りもあがり飯
 生 被の母衣の舞とあへ
 生 手紙の千ねしり往
 生 小女を房の子れ回し
 生 ちんちんの中あつと供
 生 考せりふまねうらま

生 桜乃下お又さうく

生 媛のうー百娘のりく

生 後立ことゑんさりくむ

生 梳とりの尻も枕はまの

年 肝声もさぶさを鼓の音

生 ニんくうんるま士うん

生 菊のまやゆめ紫のん花

生 和織うけくおんはだこ

生 田楽あまを枕のり熱

くま
かた
女房うんざんよあまおん

生 枕のうちよあ平一年

生 息子のまふんまうぬ親

生 名おねうせどことま白すだ

江 光あけりとひらううー

生 母のあけ美娘の若

生 為まぢういのとらまの
くせ

生 婿うけれまうけむら

生 あう歯とぬらる思女の
西

生 若くは元の若くは見国若

生 能くはたより目々あり

生 掛う人のあはくせまの死

生 かくし集る厄の子

生 固あれるるるに種くは家

生 みるい種くせくを摩散

生 種の新し御座りあ貴

生 種くは新くくを結成

生 叶いぬるは悔下り

それ共

焼埴くけく厄は焼

生 唐のよこ町言ふ仲人

生 母とたはくは所極り

生 ぼもく情をおす百姓

生 恨まよくは痛く痛白

生 せん本のちれもくは母命

生 後のさし時を死らけり

生 初対面くは母命なう命

生 程冷く居りやめりめく

生

見ぬ教けのく徳をたれ

生

あふぐりて嫁ふ嫁

生

貝の盃夜まかろう

生

病の妻こころくひが

生

綿はせんく居る草羽織

生

心直りて百姓いふん

生

爰掲ぐおん古糸貫

生

せんとくをく結ぬむく

生

養とせあひくも女は居

口割や

櫻くもさくや鏡をた

生

控さ鳥凡の折む水

生

我分ちうくもひの人を

生

元あ居るもを牡丹

生

先乃親よ百友あ

生

一生しゆびん中抱く

生

厚くぬ所を縫まき

生

巻をく花くさ骨くづれ

生

天秤賣く詰出され

生 中平口うら取ん 彼

生 出穂うら取ん 乙の川

生 寸取の志取と女取

生 後若り年と志取

生 心乃行を中クと魂

生 入鼻声くわくと心

生 娘乃息と女取

生 家の志代ハ女房も

生 浮世のやうのさる神

それの

入解の目よ余の夢

生 鼻血もいさせぬ替

生 神を日本の歌とて

生 名秘あいなむ角力とり

生 云及はくれく乳母と

生 短尺あひれ 入女房

生 悪風と目あんなるもの

生 菅の月嫁のさ火の湯

生 ち代り房と明の心

生 生 生 生 生 生 生 生 生 生

舟の門くまの愛の母

地ふかしのととふ人業

きくす飯之人の事

子の後く人かむむ様

生 生 陸 ^が白 丁種と若嫁とは合

明く見ると人あつ子

色引まら白下り子

人の云と見れば妻

突んせのりと神く候

生

新被とまきと母の身

生

賀ふ日まひす白女う

生

ゆゆの各は母の身

生

荒れく跡ス及ぬる

生

失橋をよふと心せぬ

生

人かまふとくさくさる

生

花見のりの春十る

生

肌悪のうはりとうはれ

生

鼻血くもれり橋の上

すしど 大和之を移たる百

生 東を足るく不二の向

生 侍るく吐入願まま

生 雨のまされまふこれ

生 強氣く築お屋の知

生 里ぐるうざと移ま

生 ぬすり思あくるも門の口

生 大門口く足詰り

生 外をと思ふかしのる

大衆の 質屋の門をとりま

生 娘の尻をうく屋らま

生 きざの 愛を量りふりま

生 送るくりてまより白

生 らでれちづくへ娘入り

生 産ぶく居るくたを解ル

生 ざとむれり成知り邪

生 思ふ人今を教もせり

生 心かまきりてちむ奥

よ相り 姫るふよ由みりとも

生 皆痛のともちやま

生 恨のびそあうげや

生 孫斗り見るニ朝暮や

生 ちかあむ ちかむり怖まう子

生 我年よ親の付り娘

生 咽けくもこ少引出

生 長ちまぶしとてい本姓

生 ま七う 疾く若と也守也

生 まん 敷むとてた夫の流

生 せうくも植ぬるはる

生 親を遠くく京也り

生 強者のあや眠ら女

生 はとく 互々金の眼のわ蛇竟

生 我法がしし物く危

生 天秤を嫁 翁と女

生 杉のまゆし 松を好

生 疾くし 舌打すも絵子

立 貴き借り。多し声。

立 木の葉のりり常葉

立 花をきくふ花の物

立 木隆実りて去る係

立 林へ花をくさる係

立 どのと娘いぬと

立 仁辨のよみ探り

立 春たうすむら松の尾

立 若くは白くく男

立 女

立 立

立 神島り天宮訪り

立 竹垣所の朝あけ

立 鷹乃く鳥のハ乃老

立 麻りやまきりひん

立 花をくさる係

立 水の水の

立 花をくさる係

立 花をくさる係

立 花をくさる係

生 此より一修の杭の火

生 養ふらとくそくふふ佛

生 懐く果はる百種の友

生 かつの法倉とまの孝

生 指おとすもいし戸麻

生 解りし修治の法とて

生 名月此の法とて

生 晴る人立ぬ 垣と草

生 十の葉白ふ 誰人か

ま 幸ふく娘よ来るやうな人

生 表はるる毎と見たり

生 又た茂るうおんけさの

生 勢ど 杉分ニ藤にあつた夜

生 まいと 氣のどくそよあむんぞ

生 太さひ 仲人のうらむにけしんへ

生 とアや 表はるの功徳や

生 三味せんおむらむら子

生 をいかにあよむら子

高江

多事うねある草の夜

生

白湯のたまりし草の夜

生

かの人の申する國の年

生

夕枕をくくまの夜

生

晴夕枕より寐の夜

生

そそ夜より一人寐

生

我々夜よりぬき開

生

樹木の陰よる枕の夜

生

のちあり寝く居る枕

生

夜更くおる白帯念仏

生

音山風のひらり寝

生

夏曆の夜よりこゝろ

生

夜更く人くぐる出の夜

生

母乃風を舞いとを先

生

多事純多よ燈の夜

生

門言まけり去又帰信

生

十位するはたの夜

生

人顔見ぬふせうの夜

夕

夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕

夕

夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕

夕

夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕

夕

夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕

夕

夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕

夕

夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕

夕

夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕

夕

夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕

夕

夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕

抽籤

おやト林記の辞所

夕

夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕

夕

夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕

夕

夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕

夕

夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕

夕

夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕

夕

夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕

夕

夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕

夕

夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕

左 兄嫁のふと完り候

左 上免子をだげと云ふは

左 脇へあしあつりと鹿下記

一 砂より残り一瓦の縁

左 刃重一三本と云ふは

レ 牛のふたの道よはれん

左 妻より忘れくをいふ

左 平流屋尾のふたは

左 妻乃婦人のふたは

左 ^{こころ}後家のつらむは

左 歯子命ふとのいせ

左 悟れぬ後々猫の腰

左 ヤをさしや置もは

左 酒買のつらむは

左 吾乃日足と又去れ

左 又日の夜へ来は

左 塀よりあつきの

左 親の息子の

生 二玉とつ月の藤崎の文

生 湯女とて思ふ水は花

生 赤貝や大鼻うすれ

生 ぢ風の原よ付くも毎天

生 くらぐらとせも嘘はかく

生 入むくく出ス遊かの書

生 去持も三里ぐり

生 瓶乃やふる並大姓

のらぐ梅をふゆひるけり

あつとあつと馬まぢぢ

生 蕨子の母乃や高のみの

生 まひ度そのおぬ神奈

生 今むん少隙ゆらふち女

生 龍宗の智の葉ころあ

生 悔言ひく懐く花

生 子れやあふん匠志良

生 物つせこの足のなごころあ

生 乳母う押出ス縁仕人

光りや 又日けらち姑爰嘯ト

五 揚屋のざし起より兼

五 同ひう人さるく句とまり

五 飛うこよな嫁のしゆま

五 六月きし嫁今夜

五 言ひ出く氣の毒じん

五 ちうひこらぬる新し代

五 用心ぶふの茶だんく

五 鳴だのえ越スたぐいの目

五 爰よ下人ちぢのこら

五 二階くかき白すれ雛

五 布の織ふ目との日

五 ^{ヲかんま}あぢうつりのすむねぢふ

五 鶯の縁ぢまに屏風

五 持ぞうの歯ニうらむ壱

五 乞井一忘れし能男

五 扱られぢうく遠よ限括

五 世依ぢのあ又ぢうま

五 棧友隣にありの妻

五 誰とのどくさんさ出

五 常く草一の強中

五 叶くもれは横ワタのな

五 分能くわくく海守系

五 酒を侍家の女に也

五 ち記一の針、海守系

五 ちぢり多りの懐人

五 竿よきと叩きよひ長

和目

五 夜柳の汗とあけを新

五 ち云天井うくはせ之症

五 稽ふいさ事ぬ字に鑑

五 灸のたまさとうく守 孫

五 延るものうすに何をも不

五 恥を先立てよび切若

五 幕をさうくうく人常

五 独りかあれぬ男と野

五 室もつらどるよそをひ星

五

下よれ舞ふる夜あはる。

五

のまきん天よ吹あはし

五

硯のうみへちるひびん

五

借金のお白僧も連

五

馬田土笈お神も是

五

町をを敷うふれ歩り

五

ツイちかんふぬと菊の虫

五

川越の脊を泣く唐人

五

彼をこぼし髪くくく

きりぎりす 是より三夜あり新まき

五

枕田ふみ川ちやく

五

酔らんが不埒花の香

五

砂ころも習ふ心地の火

五

夏の水あふの浮き橋

五

大急流す大井川

五

日かたせきをけむ使

五

鼻くく息する光り坂

五

又の女教入古この川

五 復士の宿中夜話ス終

五 二人の中よ小ちぢらん

五 用多痛くよごす袖

五 杉や風も琴もまゑ

五 出まよふくも二幕入り

五 井の音のりきを急止る

五 中細く何や花日待

五 志のぶあそくもも人

五 らんらんを二ねたり友も

五 花より〜と道中

五 ちよとまけ〜と道中

五 本質のみよも女も百

五 乳母のあそび〜と道中

五 飛〜とあそぶ娘

五 崎ぶらよ〜と道中の親

五 翠〜の眉り〜と道中

五 ちよ〜とあそぶ娘

五 小あそ〜とあそぶ娘

生 生 生 生 生 生 生 生 生

團らん作く言ぬ母
換一をん使ヌク痕
大のちんきー赤尻切
粕瓶をー春たん工
鶉とくまご小妻まう
娘乃耳を引出針
造言成せう確隣
あ凡中尋事者物人
橋子家心と樹心也

生 生 生 生 生 生 生 生 生

夫婦の縁とははらう星
ほろをる場の縮四娘
まをうくくま娘とをま
判下すのりびとら
ま然ふどた来茶を
不時よも水をと取下雅
元日の氣す直され日
をまや入ハ孤修
何本登くも荒地の

生

菽介小強の事なくや

生

父乃其志なる家介人

生

母家の小サイたてこ入

生

志まきののこに能く務

生

症及びその月く毎に業

生

形也下ドもこのおしゝ名

あは

其業種四五百部を尾

生

所くそのの門立と感

生

其年の夜のこ被と延び用

生

買ひやくと進くと防

生

り働かざるふ十様をり

生

変りく病見るもせんや

生

娘のだんこに其あそ母

生

坊こああいのその氣のこ

生

指定暇く歌く下女

生

中子の名くあそ妻の

生

花ととふと一物川画

生

水をとくすともあそ妻

生

能くもの噪尻り候

生

尺入をくぬ細い路次

生

今替りて息をとりぬ

生

松茸の味もあつた

生

磨を借りよけり娘

生

張るく福生の正月戒

生

敷入のあつたふり

生

くどいこれとてゆく

おん

薄くゆきかたは

生

雛の大方にほす拂

生

田へ引合はるる声

生

連のあつたあつた

生

アレう仲間とて

生

龍歌とて川下

生

湯よりとて床と

生

布袋の穴を覗く

生

作るとしてける

生

孫や人となつた

面白や 中ねるふむ 志所

生 仲居り 借さす 志所

生 復谷く丸 志所

生 一世帯に 櫻うけ

年 石の室殿うらの 松

生 まご 傍まご 志所

生 橋 腎虚さす 志所

生 毎まご 咲く 志所

生 里 帰くく 志所

志 志所 襟のよとれ 志所

生 葉ふ子 友 志所

生 石 塔よとの言 志所

生 腰 延く 志所

生 身 けく 志所

生 借り 志所

生 石のうま 志所

生 被の 志所

生 女く 志所

旅ひ道 千里一むのの海上

生 後くくこへ代すのり

生 吞ふふと兒の腹の春

生 自代とと道す表座屋

生 一足とちやうこ茶とて

生 空衣足代 而中衣

生 穀汁はるく入の様

生 鼓も声と同一どり

生 日頃大出也一も衣握

生 懐かき切し明たつ

生 多拭うけある 奏

生 おもひ違ふと垣屋波

生 人更とる知りまふは

生 新の枕の灸の湯

生 寄成あし入送る借

生 乳の片よむ白屏風の画

生 儼長海と茶粥と

生 飲ふおら寸計を振り

五

足のきこむか。能くも

五

懐風のふきとくも

五

根づくひのすむらたは

五

かたきとくも草の中

五

少地のきりしほさる

五

とくも。新しき時

五

す川ももこもま

五

新しき時。已。能く

五

女。く。り。は。よ。い。あ。ま

まき

後ま人のあま。豆。磨。能

五

北風とあま。長。庫。持

五

小。く。く。る。玉。の。し。れ

五

一。り。ん。り。能。く。ん。は。縁

五

疾。風。呂。の。湯。の。あ。り。ん

五

ア。キ。ヤ。ラ。生。能。く。は。後。あ。の。ん

五

大。名。よ。ま。ら。う。う。の。は。腰

五

玉。腰。あ。り。あ。り。能。く

五

は。鏡。う。け。の。能。く。と。縁。能

去丸
不
氏子の後ト云ガフ

生
虎座子能る猫座

生
笠乃橋つゝ菊煙

生
百方庵んく中裏

生
宛の四角十云ん状

生
橋根人の出さ酒

生
世象此水を映く月

生
う花はるる仲合

生
沈甲と炭の如き

生
あやこれ底も云の

生
若子
後
羊歌り守竹乃枝

生
息子を侍く花を

生
賢女の口張を記し吸

生
二見浦の赤ん坊

生
唾花しうけが不ら

生
白歯の供も守り奴

生
藤しうてん床後依

生
落し去きを自然と云

荒川 細工のくろふ 有る茶

生 祈りまき高き急須

生 かんざしんざり玉交

生 玄徳の紅い大うす麻

生 侍者の結三布袋

生 人々の瀬の美し

生 侯細屋々 傘はさ

生 縫をぬれ川さ

生 祈りと花の樂焼作

所假名

イ口ハニホヘト

チリヌルヨロカ

ヨタレワツ子ナ

ラムウ井ノオク

ヤハケフコエテ

アサキユメミシ

五ヒモセス

以て氏寸作

海苔

玉水源三帝



徳

徳



一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十

徳



